



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
 宣教 100～110周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

2015年10月1日(木) 第745号

発行所 福音新聞社 (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 ☎ 03-3202-5398
 発行人/ 趙重來・編集人/ 金柄鎬
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 shinacho2003@daum.net (担当者)

安保法制の撤廃を求める声明文

「何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いが起こるのですか。あなたがた自身の内部で争い合う欲望が、その原因ではありませんか。」(ヤコブの手紙 4:1)

2015年9月18日、衆議院に続いて参議院は、政府が「平和安全法制」と呼ぶ、10の既存法改正と一つの新法をひとくくりにして可決しました。一般に「安保法制」あるいは「戦争法案」と呼ばれるこの法案は、日本自身が攻撃されなくても、米軍など同盟国の軍が戦闘状態に入った状況を「日本の存立危機」と規定し、自衛隊をその戦闘に参加させる「集団的自衛権の行使」を可能にしています。

集団的自衛権については、これまで長い間、日本政府自身が「日本国憲法第9条」に抵触するとして、その行使を認めない判断を下してきました。しかし第二次安倍政権は、一内閣の閣議決定によって憲法に関わる重大な解釈を変更して、法案を提出しました。そして、世論の6割が反対し、大多数の憲法学者が「憲法違反」との判断を下すこの法案を、人々の疑念に十分答えないまま、わずか数カ月の議論の後に、多数決という「数の横暴」によって一気に決議に持ち込みました。手続き的にも多くの瑕疵が見られるにもかかわらず、なりふり構わず議決に持ち込んだ安倍政権と自民・公明両与党の強引なやり方に、私たちは大きな驚きと強い怒りを覚えます。

すでに多くの学者やジャーナリストによって指摘されているように、これは日本の立憲政治の破壊であり、民主主義に対する冒涇です。憲法を守り、平和を希求する人々の声が大きくなるとなると国会を取り巻き、全国各地で空前のスケールでデモや集会を起こしているにもかかわらず、それを一顧だにせず、数の横暴で強行採決をおこなったことに、私たちは独裁政治の始まりを肌で感じています。

我們在日大韓基督教会は、日本に暮らすキリスト者の群れとして、この国を戦争に巻き込む可能性を作るこの安保法制の成立を、決して認めることはできません。また、戦争への可能性を増大させる「戦争法案」を「平和安全法制」などと呼び、「子どもたちや未来の子どもたちに平和な日本を引き継ぐため、必要な法的基盤が整備された」などとコメントする首相の欺まん性を、決して見過ごすことはできません。さらに、この法制を中国や北朝鮮、韓国に対する「抑止力」が必要だからとする日本政府の理由付けを、決して許すことができません。なぜなら、現在の東北アジアにおける緊張関係は、多分に日本側の挑発によって作り出されたものでもあるからです。また過去の過ちについて十分な謝罪と補償を行っていない日本政府が、かつての侵略被害国を「仮想敵国」とすることが、どうして道義的に許されるのでしょうか？

私たちは、現在までこの日本に広がった在日コリアンに対するヘイトスピーチに大変な危機感を覚え、その問題を乗り越える道を求め、日本と世界のキリスト教会と共に取り組んでいます。民族的少数者に対するレイシズムと軍国主義化が表裏一体であることは世界の歴史が教えています。

私たちは、日本による先の侵略戦争と植民地支配の歴史の中で生まれたキリスト教会として、日本を「新しい」戦前へと引き戻すこの安保法制の成立を決して認めません。日本政府と国会に対して、安保法制の撤廃を強く求めます。そして安保法制撤廃へ向けたあらゆる努力を、日本のキリスト者たちと連帯して行っていきます。なぜならこれこそ「平和を実現する人々」(マタイによる福音書 5:9)として召された私たちキリスト者の、今の日本における最も重要な使命のひとつと確信するからです。

「主は多くの民の争いを裁き、はるか遠くまでも、強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。人はそれぞれ自分のぶどうの木の下、いちじくの木の下に座り、脅かすものは何もないと、万軍の主の口が語られた」(ミカ書 4:3～4)

2015年9月22日

在日大韓基督教会
 総会長 趙重來

<関西地方会> 大阪北部教会 金正吉長老将立式



6月21日(主日)、午後4時から大阪北部教会では、金正吉長老将立式が挙行された。

礼拝は担任牧師である趙永哲牧師の司会で始まり、祈禱後、関西地方会の副会計である京都教会の襄良一長老が聖書朗読、そして京都教会の金榮植名誉牧師が「愛によって互いに仕えなさい(사랑으로 서로 섬기라)」(ガラテヤ5:6、13)という題で説教した。

引き続き、関西地方会長金鐘賢牧師(浪速教会)の司式で長老将立式が行われた。

その後、励めの言葉と祝賀の時間では、まず金正吉長老が属している壮年会による祝歌があり、任職者に対する励めの言葉は、地方会副会長である朴成均牧師(和歌山第一教会)が、そして教友たちには全聖三牧師(布施教会)、祝辞は地方会の代表として副会長金錦順長老がそれぞれ述べた。

さらに、記念品・記念牌・花束の贈呈をしてから、崔永峻長老が祝文・祝電を披露した。

最後に、大阪第一教会の李海春名誉牧師が祝詞した。

今回、長老として将立された金正吉長老は、1953年大阪市淀川区で生まれ、1983年11月7日にイエス福音教団豊橋教会(見城孝志牧師)で洗礼を受け、1996年から当教会の執事として奉仕して来た。

家族は、夫人(全早苗執事)と1男2女がいる。

(報告: 趙永哲牧師)

<西南地方会> 福岡中央教会 長老将立式・名誉長老推戴式

7月19日(主)、福岡中央教会では金瑪璃長老将立式、金幸子名誉長老推戴式が執り行われた。

金幸子長老は、22年の長きの間、女性長老の先がけとして、教会だけではなく地方会や総会においても多くの役職を担い、視務長老として仕えられて来た。

この日、名誉長老として推戴されるため、新たな長老を願ひ求めていたところ、金瑪璃長老が将立される事となり、引き続き女性長老の活躍が期待される。

多忙の中で、来賓や西南地方会各教会の牧師や信徒達が参加し、恵みの内に式が捧げられた。西南地方会会長朱文洪牧師が司会で、折尾教会の千奉祚牧師が祈り、宇部教会の崔榮信牧師が、「ただ主に従って」(ヨシュア記14:6~14)と題して説教した。その後、朱文洪牧師の司式により、長老将立式と名誉長老推戴式が執り行われた。



将立される長老に対しての励勉は、熊本教会の金聖孝牧師が、教会員へは、西南地方会副会長の李惠蘭牧師が述べた。祝辞は、総会を代表して総幹事金柄鎬牧師と折尾教会の李圭哲名誉長老が語った。なお、総会内外からの祝電・祝文も報告された。式の後は、福岡中央教会の信徒達が心を込めて準備した食事に感謝しながら、良き交わりをした。

今回将立された金瑪璃長老は、京都教会の金昌日名誉長老の娘であり、信仰の家庭で生まれ育ち、小倉教会と福岡中央教会で26年間署理執事として継続して仕えて来た。

(報告: 金明均)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル: 東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様~200名様のお会議及び宿泊研修(50名)も可能。
 ・スペースYホール: 200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
 ・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種こどもクラス
 ・YMCA東京日本語学校【3ヶ月~2年、短期研修】
 関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャング】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCA アジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

関西韓国YMCA アジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー ¥200(宿泊者価格)		

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

＜第 14 回 ACC 総会＞ 報告①

女性と青年の躍進



2015 年 5 月 20 日から 27 日、インドネシア・ジャカルタにて開催される CCA (アジアキリスト教協議会) の総会 (テーマ: 神の家でともに生きる) に女性代表として行くことは早くから決まっていた。当初オブザーバーの予定だったが、最終的には代議員として出席することになった。

同行した李元重牧師の配慮で、アジア各国に散らばる韓国人宣教師と親しく交わり、何かと助けていただいた。主の山に備えあり。

CCA は、アジアにおける 21 カ国 101 の教会、17 の各国・地域のキリスト教・教会協議会をメンバーとし、1957 年に最初の総会を開いている。私たち KCCJ も正式なメンバーである。

2013 年 11 月に釜山にて開催された WCC 総会では、オブザーバーとして女性大会と開会礼拝のみに参加し、本会議は出ていない。国際会議やギャザリングへの参加は 3 回目。そのような者が総会初日、KCCJ のネームプレートを探しながら議席についたときの第一印象は、なんて女性と青年が多いのだろうということである。議長団で司会を務める女性の若さにも目を見張った。



WCC も CCA も、代議員のうち女性が 3 分の 1、青年が 3 分の 1 と決められ、教職者と信徒の割合も決められている。男女平等の実現のため各方面で実施されているクォーター制である。

実は、青年を送ってほしいという要請が何度も来ていた。ところが今回、KCCJ から他の教団からも、日本からは誰一人送ることができなかった。危機的状況ではないだろうか。

数千人が集う国際会議には多くの奉仕者の手が必要である。そのため各国からスチュワードと呼ばれる青年奉仕者を募り、彼らが部署ごとに手足となって様々な働きを担う。雑用一般をこなし、走り回って一日が終わる。それでも会議に参加しながら鍛えられ、教会のリーダーとしてグローバルな感覚を身につけることができる。

特に印象的だったのが、朝と夕方、会議の始まりと締めくくりを持たれる礼拝の場での青年の活躍である。よく練られ準備された礼拝は、その日ごとのテーマにそって、講壇の花やろうそく、アジアらしい竹でできた十字架にたらしめられた布などの飾りつけもそれに沿ったものであり、受け身ではなく「ともにささげる礼拝」が強く意識されている。登壇するのは教職だけではなく、信徒、青年、そして教派や地域のバランスも考慮されている。



開会礼拝では、地元インドネシアの民族楽器や舞踊に先導されて華々しく議長団や来賓が入場し、祝祭の始まりを感じさせられた。しかし礼拝の中身は、不正義や暴力、貧困など、苦痛に満ちたアジアの現実を主に呼び求める内容で、パントマイムを用いた青年たちの姿がとても印象的だった。

夜遅い便でホテルに到着した時のハプニングを付け加えておきたい。参加申込の際、部屋の選択で迷ったが、仕事をしたかったのと、初対面の人と 1 週間過ごすストレスを考え、シングルを選択。ところが行ってみると、部屋がないという。渋々相部屋に入ったところ、相方は西パプア出身の女性。彼女を通じてパプアニューギニアの悲しい歴史を知ることになった。

政治に翻弄され、大国に次々と支配されてきたことを聞きながら、マイノリティーである在日コリアンと沖縄のことを語り合うことができた。

仕事は一切できなかったが、万事を益とされる主に感謝！

(報告: 朴栄子)

〈全国教会女性連合会〉 第60回 定期総会・研修会



全国教会女性連合会は2008年に創立60周年を祝ったが、定期大会は今年6月18日(木)～20日(土)に第60回を迎え、関西アカデミーハウス(京都)にて大会と研修会が開催された。テーマは「いのちのこぼれ～わたしたちのマナの分かち合い～」で、全国から代議員65名と女性会員、男性牧師の参加もあり、総勢95名であった。

開会礼拝では新井由貴牧師より「イエス様こそ希望」と題してメッセージがあり、聖餐式が行われた。

今大会での議題は、以下である。①略称を「全国女性会」としてきたが、「全国教会女性会」とする(第1章1条)ことが議決され、②第3章(代議員)の2項、委員の代議員の件について、「20名以下の女性会にプラス1名の代議員の件を与える」との追加分の付加、③第4章に「顧問」を加えることについては、継続審議となった。そして、「セツトンの家」の権玉華理事長、李芸求副理事長、朴善喜名誉理事長に感謝牌と花束を贈呈し、感謝の意を表した。

さらに、断食祈禱会(2日目の朝食を断食)や、2区分の時間内で7つの分科会を開催した。

2日目の午前中は金必順牧師を講師に「聖書井戸端拡大版」を開催した。3日目の全体討論では、分科会Iで話された「総会憲法と牧師の任期制」を受けて、総会の問題、女性会の役割、憲法について活発な意見交換がなされた。

また、今回初めての試みとして、小礼拝堂を「静まりの部屋」として24時間開放した。

閉会礼拝では朴愛仙牧師より「神様がしてくださること」と題する説教があり、豊かな交わりと恵みのうちに大会と研修会を終えることができた。改選は以下の通りである。

役職	氏名	教会	役職	氏名	教会
会長	金英淑	大阪	西部	崔美恵子	武庫川
副会長	李炫知	小倉	西南	韓英蘭	福岡
書記	宋福姫	名古屋	財政局長	李貞勳	小倉
副書記	李敏禮	西新井	教育局長	李正子	名古屋
会計	崔景淑	武庫川	宣教社会局長	金英子	大阪
副会計	金成喜	東京	電話相談局長	金玉京	大阪
関東	金恵珍	川崎	会計監査	金恵玉	京都
中部	鄭仁仙	岐阜		朴康子	京都
関西	丁恵淑	平野	総務	朴栄子	豊中第一復興

(報告: 朴栄子)

〈青年会全国協議会〉 第53回定期全国協議会

9月21日(月)～22日(火)、青年会全国協議会(以下、全協)「第53回定期全国協議会」が、全国から12名(内8名が代議員)参加して、京都南部教会にて開催された。

一日目は、許伯基牧師(京都南部教会、信徒委員長)による開会礼拝から始まった。引き続き、2014年度の各地方会青年会、各部、書記、総務、副代表の年間報告の後、代表委員である李信三の総括を終え、来年度の展望を共有した。

二日目は、建議案を質疑や意見を出し合いながら議論した。一つ目は、「在日・日・韓キリスト者青年研修プログラム」(共プロ)、二つ目は、全協会則、三つ目は、地方会青年会振興部の今後についてであった。



その後、2015年度中央委員の改選を行った。推薦により、1名が新任された。2015年度の中央委員は以下の通りである。代表委員: 白勝和(大阪)、副代表委員: 張晶洙(川崎)、総務: 呉眞雅(大阪)、書記: 中野晃徳(名古屋)、渉外部部長: 伊藤直人(名古屋)、渉外部員: 白勝和、企画部長: 呉眞雅、企画部員: 李智熙(大阪北部)、広報部長: 中野晃徳、広報部員: 張晶洙・伊藤直人・李智熙、地方会青年会振興部長: 呉眞雅、地方会青年会振興部員: 張晶洙・伊藤直人、財政部長: 李智熙、財政部員: 白勝和

改選後は各役職・予算案を発表後、京都南部教会の尹善博牧師による閉会礼拝が行われた。

最後に、「新しい中央委員は6名であるが、神さまの愛と恵みの中で喜びを持って奉仕をし、全国の青年の繋がりのお場をつくり、全協が神さまの御心によりかなう場所となれるよう熱意と誠意をもって活動していきたい。そして、わたしたちの活動を見守り、導きと恵みの言葉を与えてくださる牧師任の方々、いつも応援して下さる在日大韓基督教会につながる全ての教会の信徒の方々、そしてなによりもいつも私たちのそばにいてくださる神さまへの感謝します」。

(報告: 呉眞雅)